

# 高校・大学連携による 津波避難評価シミュレーションシステム

京都大学防災研究所  
畑山 満則

**キーワード** 避難行動, 津波, マルチエージェントシミュレーション, 基盤地図情報, 高大連携

津波避難は命を守る行動として非常に重要です。現状は紙地図を使った避難計画策定と訓練による検証が、標準的な地域活動になっていますが、参加者の高齢化、固定化が問題になっています。GIS やシミュレーション技術を導入した活動も増えてはいますが、研究機関や大学の研究室がおぜん立てしたものを使ってみるだけというものがほとんどです。今回の展示は、大学側はプログラミングを伴うソフトウェア部分は提供しているものの、システム構築に必須の調査とデータ作成はすべて地元の高校生が担っているところが、他にはない取り組みとなっています。この活動を通して、高校生は防災を我がこととしてとらえられるようになっており、さらに高校教員の想像以上に GIS を使いこなせるように成長しています。また、地元高校生がかかわることで、これまで地域防災の取り組みに参加しなかった人たちが参加するようになるような事例も見られました。つまりこの活動は、地域防災の電子化を推進するだけでなく、防災活動に携わるメンバーの流動性を高めることにも貢献できるモデルとなっているのです。

